

1 作付面積と収穫量

(1) 全国

概況

大豆の生産は、米の生産調整の推進等に伴い作付が増加し、平成13、14年には生産量が27万トンに拡大した。

しかし、台風等の気象の影響を受けやすく、平成15、16年と2年連続で不作となるなど、生産は不安定である。

平成21年産作付面積

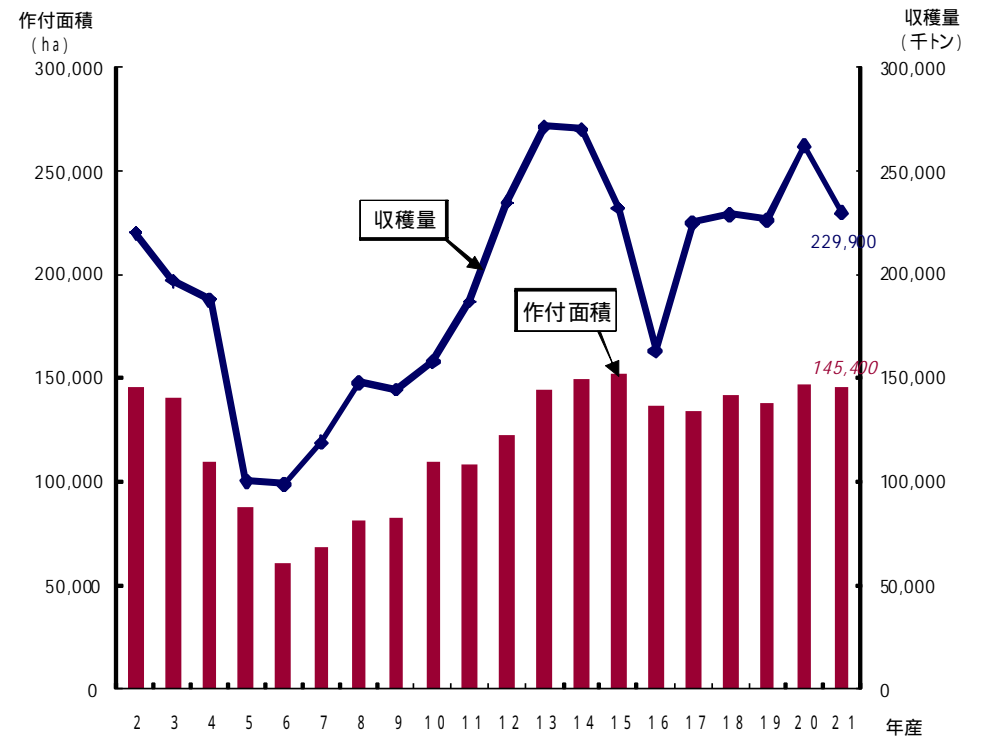
平成21年産大豆の作付面積（乾燥子実）は14万5,400haで、前年産に比べて1,700ha（前年産比1%）減少した。

平成21年産収穫量

平成21年産大豆の収穫量は22万9,900トンで、前年産に比べて3万1,800トン（前年産比12%）減少した。

これは、作付面積の減少に加えて、北海道における7月中下旬の低温、日照不足及び多雨による湿害、東海地域を中心とした台風による影響、九州北部における7月下旬の豪雨による発芽不良等により生育が抑制されたこと等による。

作付面積と生産量の推移（全国）



資料：作物統計

(2) 北陸 作付面積

北陸の平成21年産大豆の作付面積は、前年産と比較して400ha減の1万5,400haとなり、全国の作付面積(14万5,400ha)の約11%を占めている。

大豆作付面積(田畑計)の推移(全国及び北陸)(単位:ha)

年産	全国	北陸	新潟県	富山県	石川県	福井県
12	122,500	15,000	6,120	5,510	1,960	1,410
13	143,900	18,100	8,210	6,210	2,080	1,640
14	149,900	19,000	8,880	6,240	2,150	1,770
15	151,900	20,100	9,600	6,460	2,240	1,840
16	136,800	16,700	7,280	6,030	1,780	1,590
17	134,000	14,900	6,290	5,570	1,650	1,390
18	142,100	15,000	6,450	5,510	1,670	1,320
19	138,300	14,800	6,340	5,390	1,690	1,340
20	147,100	15,800	7,320	5,350	1,740	1,400
21	145,400	15,400	7,140	5,080	1,680	1,490

資料:作物統計

収穫量

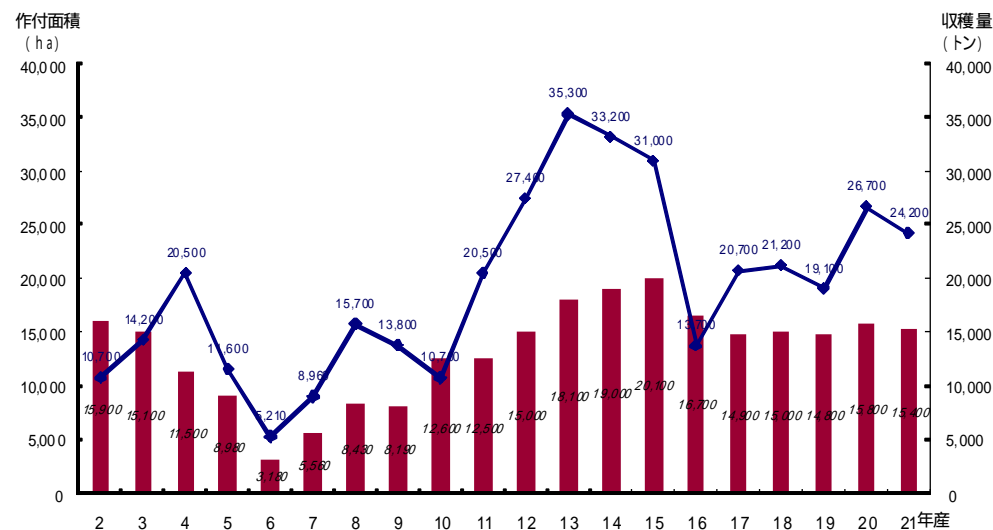
北陸の平成21年産大豆の収穫量は、7月～8月上旬の日照不足等により前年産と比較して2,500トン減少し、2万4,200トンとなり、全国の収穫量(22万9,900トン)の約11%となっている。北陸管内での県別シェアは、新潟県が47%、富山県が35%、石川県が10%、福井県が9%となっており、新潟、富山の両県で北陸地域の8割強を占めている。

大豆収穫量の推移(全国及び北陸)(単位:トン)

年産	全国	北陸	新潟県	富山県	石川県	福井県
12	235,000	27,400	12,500	10,200	2,800	1,880
13	271,600	35,300	17,400	11,000	3,950	2,920
14	270,200	33,200	17,400	10,400	3,100	2,280
15	232,200	31,000	15,600	9,280	3,360	2,780
16	163,200	13,700	7,640	3,260	1,600	1,240
17	225,000	20,700	9,710	7,880	1,750	1,350
18	229,200	21,200	9,570	7,660	2,150	1,860
19	226,700	19,100	8,750	6,900	2,040	1,410
20	261,700	26,700	13,100	8,990	2,500	2,070
21	229,900	24,200	11,200	8,590	2,290	2,070

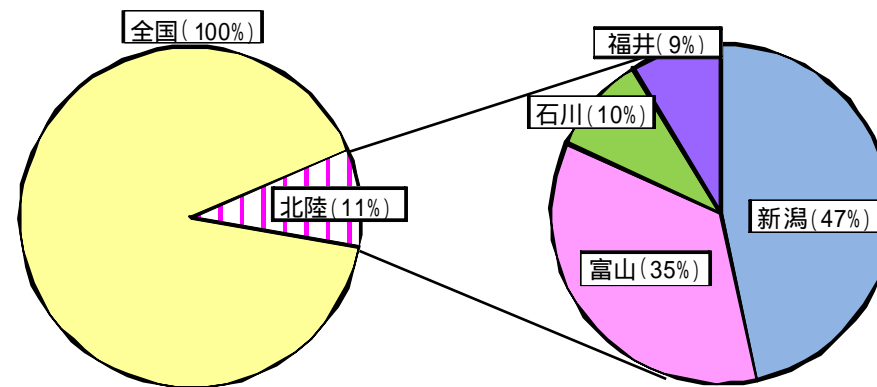
資料:作物統計

作付面積及び生産量の推移(北陸)



資料:作物統計

北陸管内における県別収穫量の割合(平成21年産大豆)



資料:作物統計

2 単収

全国の平均単収（10a当たり収量）は、近年、160kg/10a台と伸び悩んでいる。平成21年は低温、日照不足、豪雨、台風など全国的に天候に恵まれず、前年産の単収を下回った。

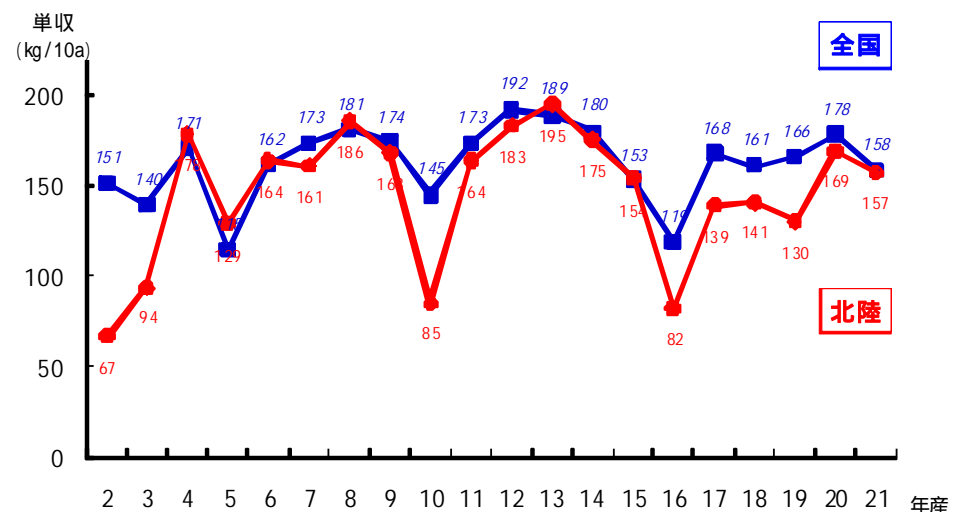
北陸における平成21年産の単収については157kgで、前年産に比べて12kg（対前年比7%）減少した。

単収の推移（全国及び北陸、田畑平均）（単位：kg/10a）

年産	全国	北陸	新潟県	富山県	石川県	福井県
11	173	164	182	159	151	134
12	192	183	204	185	143	133
13	189	195	212	177	190	178
14	180	175	196	167	144	129
15	153	154	163	144	150	151
16	119	82	105	54	90	78
17	168	139	154	141	106	97
18	161	141	148	139	129	141
19	164	129	138	128	121	105
20	178	169	179	168	144	148
21	158	157	157	169	136	139

資料：作物統計

単収の推移（全国及び北陸、田畑平均）



資料：作物統計

（参考）平成21年産大豆データ（各県上位3市町村）

（1）作付面積（単位：ha）

新潟県		富山県		石川県		福井県	
1	新潟市 1,710	1	砺波市 765	1	白山市 550	1	福井市 429
2	上越市 1,230	2	富山市 742	2	加賀市 152	2	坂井市 417
3	長岡市 1,040	3	南砺市 642	3	内灘町 141	3	あわら市 303

（2）収穫量（単位：トン）

新潟県		富山県		石川県		福井県	
1	上越市 2,090	1	砺波市 1,350	1	白山市 979	1	福井市 649
2	新潟市 2,080	2	入善町 1,340	2	小松市 243	2	坂井市 587
3	長岡市 1,980	3	富山市 1,100	3	内灘町 175	3	あわら市 483

（3）単収（単位：kg）

新潟県		富山県		石川県		福井県	
1	見附市、三條市 222	1	入善町 226	1	白山市 178	1	あわら市 159
2	田上町 210	2	魚津市 211	2	小松市 174	2	福井市 151
3	長岡市 191	3	黒部市 204	3	川北町、野々市町 173	3	越前町 145

資料：農林水産関係市町村別データ

3 品質（検査）

（1）上位等級比率

北陸地域における平成21年産大豆の上位等級比率（1・2等）は、26.1%と、20年産の12.2%に比べ増加したものの、全国平均の63.0%と比べ大きく低迷している。

（2）しわ粒

北陸では、重粘土壌の影響等による湿害により、しわ粒の発生が多くなっている。

平成21年産大豆において2等以下に格付けされた理由のうち、「しわ粒」の占める割合は、北陸では83.8%と高い割合となっている。

北陸農政局としては、（独）中央農業総合研究センター北陸センター等の関係機関が平成16～18年度に行った農林水産高度化事業「北陸地域に多発する大豆しわ粒の発生防止技術の開発」の研究成果を取りまとめたパンフレットを生産者等へ配布するなど、大豆しわ粒の発生防止技術の生産者等への普及に努めているところである。

（参考）研究成果の概要

(1) ちりめんじわ

発生には子実肥大盛期前後の栄養状態が影響し、作物体の老化が関係。

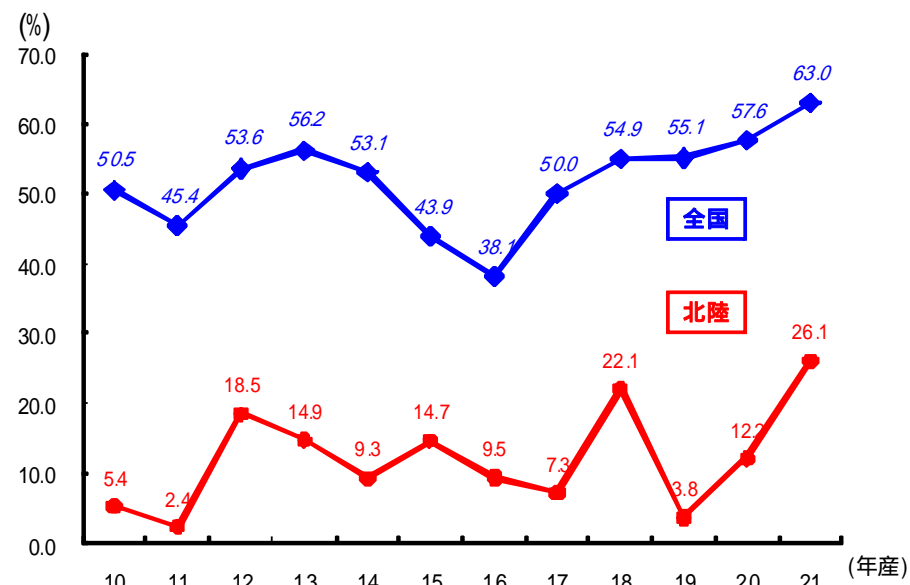
発生防止対策としては、窒素栄養状態の改善、無機栄養状態の改善、土壌環境の改善が必要。

(2) 亀甲じわ

成熟期後の乾燥過程において子実水分が低下した後の吸湿により発生し、その後の乾燥、吸湿の繰り返しにより増加。

発生防止対策としては、コンバインによる刈取開始は成熟期前後の子実水分22%前後の時期から行うことが必要。

上位等級（1・2等）比率の推移（全国及び北陸）



資料：食糧部、農政事務所調べ

4 品種

北陸における作付品種は、タンパク含量が高く、豆腐の加工に適したエンレイが約9割の作付面積を占めている。

管内各県において、作期分散などのため、晩生のあやこがね、オオツル等の導入が図られているものの、その割合は少ない。

現在、主要品種であるエンレイを補完する新品種の導入についての検討が行われている。

各県の奨励品種及び産地品種銘柄一覧（平成22年4月現在）

	奨励品種	産地品種銘柄	
		必須銘柄	選択銘柄
新潟県	あやこがね、エンレイ	エンレイ、コスズ	あやこがね、スズユタカ、 タチナガハ
富山県	エンレイ、オオツル	エンレイ、オオツル、 東山213号	フクユタカ
石川県	エンレイ	エンレイ	あやこがね、オオツル、 サチユタカ、フクユタカ、 コスズ
福井県	あやこがね、エンレイ、 フクシロメ	エンレイ	あやこがね、オオツル、 フクユタカ、里のほほえみ

赤字は22年から新しく追加されたもの

県別品種別作付面積と割合（平成20年産上位3品目）

（単位：ha）

県名	作付面積	1位		2位		3位	
		品種名	面積 (比率)	品種名	面積 (比率)	品種名	面積 (比率)
新潟県	7,320	エンレイ	7,015 (95.8)	あやこがね	132 (1.8)	コスズ	42 (0.6)
富山県	5,350	エンレイ	4,802 (89.7)	オオツル	545 (10.1)		
石川県	1,740	エンレイ	1,445 (83.0)	あやこがね	184 (10.6)	コスズ	14 (0.8)
福井県	1,400	エンレイ	1,308 (93.4)	あやこがね	45 (3.2)	フクユタカ	3 (0.2)

資料：生産局生産流通振興課調べ

5 栽培基本技術の実施状況

管内における栽培基本技術（営農排水対策、中耕、培土、防除、除草）の実施割合は、全国に比べて高くなっている。

栽培基本技術の実施状況（全国及び北陸）（平成20年産）

（単位：%）

	営農排水 対策	中耕	培土	防除	除草
全国	79	76	67	85	90
北陸	91	85	88	97	98

資料：生産局生産流通振興課調べ

6 入札落札価格

(財)日本特産物協会が実施している国産大豆の入札における落札価格は、17年産以降、6,000～8,000円台で推移している。

大豆の落札平均価格の動向（全国及び北陸）

(単位：円/60kg)

	16年産平均	17年産平均	18年産平均	19年産平均	20年産平均	21年産平均
全国銘柄平均	16,250	7,078	6,937	7,942	7,129	6,870
新潟産エンレイ	16,434	6,792	6,751	7,205	6,620	6,424
富山産エンレイ	16,469	7,697	6,797	7,026	6,822	6,696
石川産エンレイ	14,252	7,460	6,586	6,498	6,600	6,535
福井産エンレイ	13,862	6,474	6,914	6,628	6,638	6,730

注1：(財)日本特産農産物協会入札取引結果による算出。

注2：各県産の落札平均価格は、エンレイ普通大豆(大粒・中粒)の落札価格の加重平均により算出。

注3：富山県の16年産落札平均価格については、普通大豆の落札数量がなかったため、特定加工用大豆で算出。

注4：21年産平均については4月末現在の値。

7 水田経営所得安定対策

北陸地域の平成21年産大豆における水田経営所得安定対策への申請経営体数は2,996経営体となっている。

また、申請経営体の大豆作付予定面積は14,057haとなっており、平成20年産作付面積の89%、対前年加入実績比では98%となっている。

大豆の申請経営体数及び作付予定面積（平成21年産）

地域	経営体数	うち		作付予定面積(ha)	うち		対20大豆作付面積(%)	対前年産加入実績(%)
		認定農業者	集落営農組織		認定農業者	集落営農組織		
全国	22,783	19,337	3,446	120,899	78,852	42,047	82	101
北陸	2,996	2,604	392	14,057	11,017	3,040	89	98
新潟県	1,811	1,699	112	6,262	5,087	1,175	86	99
富山県	658	483	175	4,849	3,539	1,310	91	96
石川県	272	232	40	1,607	1,404	203	92	98
福井県	255	190	65	1,339	987	352	96	105

資料：農林水産省平成21年8月5日公表「平成21年産水田・畑作経営所得安定対策加入申請状況」

注：作付予定面積は、四捨五入により、内訳の合計と数字が一致しないことがある。